

File
07

岡本自工株式会社

■ 所 在 地：宇佐市大字北宇佐1775番地の2	■ 沿 革：1962年 会社創立
■ T E L：0978-37-0238	1970年 本社を現在地へ移転・自動車建機事業部設立
■ 事業内容：自動車の内装部品製作(2次メーカー)	1983年 部品製作事業部新設
■ 雇用人数：健常者91人 障がい者4人	1991年 株式会社へ
	2006年 物流事業部新設



仕事をする喜び、厳しさを経験して「社会人」として成長 障がい者雇用では利益を考えずに、社会貢献の一環ととらえる

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

軽度の知的障がい者4人を雇用している。年齢層は19歳から30歳代で、入社2年目から長い人で8年目。

2人は自宅から、2人は糸口通勤寮から通っている。障がい者も健常者も一人が一工程ずつ担当するなど、仕事内容も責任も給与体系においても区別はない。

■ どんな仕事をしているか

同社は自動車の二次メーカーとしては県内唯一の地場産業として発展している。現在はダイハツと日産から販売されている一部の車種の内装部品(ひじ掛けやサンバイザーの布張り、ドア内側のパネルなど全般)の製作全般を請け負っている。

作業は非常に細分化されているため、障がい者も健常者も関係なく、一人ひとりが独立してそれぞれの仕事を担っている。



車のひじ掛けに布を張りつける作業

障がい者を雇用して良かった点

障がい者と同じ職場で仕事をすることによって、障がい者を理解し、また指導することで健常者も仕事に対する甘えなどが見えてきて、作業の取り組み方、仕事全体に対する考え方方が大きく変化した。

また、仕事がある喜び、働く喜びを共に実感できるようになった。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

部品製作事業部 工場長 伊藤 俊彦さん

工場全体で障がい者、健常者に隔たりなく接しています。そのため、仕事に対しては厳しく、また職場の雰囲気は楽しむ働きやすい環境を作っています。

仕事は全員が単独作業を担っているので、「君が休んだらとても困るんだよ」と言って聞かせ、責任感を持てるよう促しています。

障がい者も健常者も全員が一丸となって日々生産に取り組んでいます。



■ 現職障がい者

部品製作事業部・ダイハツ工程 竹中 亮さん

工場の皆さんととても温かく、非常に働きやすい職場です。社内に友人もでき、充実した日々を過ごしています。

社外の友人とバンドを組んでいるので、休日はバンドの仲間と練習するのが楽しみです。ギターがうまくなること、そして今の仕事を長く続けることが今の目標です。



プロセス

1 STEP

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

20年ほど前、糸口学園から生徒の受け入れ要請があった。仕事ができるのならばと、紹介された2人をとりあえず1週間ほど働かせてみたら、しっかりと働いたので、そのまま雇用することにした。

2 STEP

■ どんな問題点にぶつかったか

障がい者と健常者では仕事に対する意識の差があり、その谷間に埋めるのに大変苦労した。

また障がい者も真面目な人ばかりではなく、仕事が進歩する前に休憩を覚える人もいるので、仕事に対する心構えなどから指導したこと。

たとえ仕事ができなくても精神的に頑張っている人もきちんと支援するが、その見極めや、どのような指導をすればその人が成長できるのか、そのサポート方法を探し出すことは大変だ。



サンバイザーの芯を一つ一つ丁寧に平らにする作業

3 STEP

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

①うまくいっているところ

障がい者と健常者を同等に扱う同社の方針に従い、注意するところはきちんと注意し、ほめるところはしっかりとほめる。

また障がい者がたとえ実際には仕事ができていなくても、「働きたい、会社のために働く」という気持ちを持つようサポートすることで、精神的に頑張る気持ちが芽生え、自立心がついてくる。そうなるように働きかけている。



②現在の社内でのコミュニケーション

同社は仕事面でも、給与面でも健常者と障がい者の区別をまったくつけていない。働くことの厳しさや大切さ、お金をもらうことの喜びなどは仕事を通して教えている。そうすることで障がい者も一社会人として成長していく姿を見られることがとてもうれしい。

年に一度の忘年会では、みんなで酒を酌み交わしたり、カラオケを歌いながら親ぱくを深め、お互いが理解し合える場として定着している。

③サポート体制

障害者就業・生活支援センターサポートネットすまいるの指導員の方々と、連絡を密にし、常に障がい者を見守るようにしている。